

令和 8 年 7 月 10 日

令和 7 年度 特別の教育課程の実施状況等について

愛媛県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
鬼北町立日吉中学校（他 1 校）	鬼北町教育委員会	公立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
鬼北町立日吉小学校	https://kihoku-hiyoshi-e.esnet.ed.jp/file/13021
鬼北町立日吉中学校	https://kihoku-hiyoshi-j.esnet.ed.jp/file/15427

※必要に応じて行を追加すること。

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
鬼北町立日吉小学校	https://kihoku-hiyoshi-e.esnet.ed.jp/kyoudo	https://kihoku-hiyoshi-e.esnet.ed.jp/evaluating-school
鬼北町立日吉中学校	https://kihoku-hiyoshi-j.esnet.ed.jp/kyoudo	https://kihoku-hiyoshi-j.esnet.ed.jp/evaluating-school

※必要に応じて行を追加すること。

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

☒ 計画通り実施できている

☐ 一部、計画通り実施できていない

☐ ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

☒ 実施している

☐ 実施していない

<特記事項>

毎月1回、「ボランティア通信」を校区内全世帯に配布し、各学年の「郷土学」の取組を公開している。また、学校ホームページへの「ボランティア通信」掲載や、地元のケーブルテレビへの放映依頼等、地域への積極的な広報活動に努めている。

隔年で、校区内全世帯を対象に、「学校教育に関するアンケート」を実施し、その結果を、教育実践や広報活動の見直しに生かしている。

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

本校は、平成25年度から、隣接する日吉小学校と「地域とともにある小中一貫教育」を推進し、特別の教育課程「郷土学」に取り組んでいる。9年間を見通した系統性のある指導により、「郷土の歴史や文化、産業、生活、自然など、地域素材を基とした体験活動を通して、地域社会の形成者としての資質・能力の育成」を目指している。

体験活動や地域の方との交流を核に、5・6年生「郷土の歴史に学ぶ」においては地域にある山城について現地を訪れて学び、その成果を中学生と共有することができた。中学校では11月に「一人一研究発表会」を、小学校では2月に「郷土学発表会」を、保護者や地域の方を招いて実施している。実践に対しては、地域住民等からも「発達段階に応じた取組ができており、児童生徒の成長が感じられる」といった声をいただいている。教職員・保護者・地域学校関係者評価委員等を対象にした学校評価においても、前期後期ともに、「9年間を見通した系統的なカリキュラムの郷土学」の項目がA（達成率80%以上）という評価を得ている。児童生徒は、地域住民の願いや思いに触れ、感謝の気持ちを強くするとともに、地域住民の一員としての自覚も芽生えたようである。地域の教育力を得ることによって、児童生徒が豊かに育つことを実感することができた。

一方、課題としては、「郷土学」の特性である対話する技能やコミュニケーション力の育成、人との関わりを重視した体験活動をより充実させる必要がある。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

小学校は「元気・根気・やる気と思いやりがあり、郷土を誇りに思う児童の育成」を、中学校は「豊かな人間性を育み、自己や郷土に自信と誇りをもつ生徒の育成」を学校の教育目標に掲げ、児童生徒一人一人が自己や郷土に自信と誇りを持てる教育を学校経営の基本方針の一つとしている。中学校では、前期の生徒アンケートで、「進んで、地域の文化や自然、人々との交流に取り組んでいる」と回答した生徒が90%であった。小学校においても、児童アンケートの結果から、「郷土学」により、郷土に誇りを持ち、積極的に関わっていこうとする児童生徒が育っていることがうかがえる。また、「郷土学発表会」や「一人一研究発表会」では、「充実した内容で、児童生徒の自己表現もできている」という声を地域の方々から寄せていただいた。

一方、発表（発信）の機会が年に一度しかなく、参観者も校区内と限定されており、来校いただく方は限られている。学習の成果が校区内で留まることなく、広く伝えてい

くことが課題である。

4. 課題の改善のための取組の方向性

3に示すような課題を踏まえて、二つの改善に取り組む。

一つ目は、「郷土学」の学習内容や学習方法の見直しを行う。そのために、地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）と連携し、創意工夫ある授業や新たな人材・素材等の開発に努めたい。

二つ目は、年に1回の発表会に限らず、学習の成果を近隣校へ発信する機会を継続して設ける。今年度は地域と連携したイベントを開催し、校区外へも成果を広く発信する。これらを通じて児童生徒が郷土の良さを再認識し、将来にわたり郷土を誇りに思う心を育んでいきたい。